

第1回 広報・会員増強・ロータリー情報合同クラブ委員長会議報告書

委員会名	広報・会員増強・ロータリー情報委員会	委員長名	
開催日時	平成22年11月13日 AM9:30-11:30	開催場所	奈良県新公会堂 1F
出席者	吉村元嗣、杉田博、寺田俊彦 各クラブ委員長、甲村侑男研修リーダー		
欠席者	なし		
議案	広報・会員増強・ロータリー情報合同クラブ委員長会議 (第4組 IM 奈良県内)		
報告事項			
<p>会議次第</p> <p>1. 開会挨拶： 土井 誠賢 ロータリー情報委員長</p> <p>2. 合同クラブ委員長会議開催の趣旨説明 平井 義久 PDG</p> <p>3. 三委員会委員長挨拶並びに説明 ロータリー情報委員会 土井 誠賢委員長 会員増強・拡大委員会 杉本 直委員長 広報・雑誌委員会 細見 正博委員長</p> <p>4. 質疑応答</p> <p>5. 閉会の挨拶 会員増強・拡大委員会 杉本 直委員長</p> <p>◎委員会内容:添付報告書通り</p> <p>◎登録料 3,000円/人</p>			
次回開催日時	なし		
執行額			
報告書作成者	会員増強委員長 杉田 博		

広報・会員増強・ロータリー情報合同クラブ委員長会議（報告）

- ・2010年11月13日（土）午前9時～11時30分（於）奈良県新公会堂 第1会議室
- ・2010-11年度の各クラブの委員長会議は、ロータリー情報、会員増強・拡大と広報・雑誌の3委員会合同委員会であった。（資料あり）

地区より出席者：会員・増強担当諮問委員平井義久 PDG(京都洛中 RC)の下スライドを使って、土井誠賢ロータリー情報委員長（高島 RC）、杉本直会員増強・拡大委員長（京都伏見 RC）、細見正博広報・雑誌委員長（京都紫竹 RC）の順で発表された。

大和高田RCからの出席者：吉村元嗣広報委員長 杉田博会員増強委員長 寺田俊彦ロータリー情報委員長、甲村侑男クラブ研修リーダー

1. ロータリー情報

ロータリーに関する先般の54問のアンケート回答結果を1つ1つ順に発表されました。集計結果がIM単位の集計を単に平均されたもので、1の位がすべて0という明らかに不誠実な集計であり、集計結果からの考察もなく、折角アンケートしたにもかかわらずそのアンケート回答数すら不明というありさまであった。

5つのIM単位の会員数（回答数がほぼ同じならそれでも良いが、2010年9月末の会員数では5つのIMでは、次のようである。）

1組：滋賀県22クラブ(975人)、2組：京都北部7クラブ(568人)、3組：京都南部35クラブ(1,633人)、4組：奈良県13クラブ(715人)、5組：福井県19クラブ(824人)で合計4,715人です。

例えば、京都北部が80%、京都南部が50%の場合の2つの結果から計算すると、 $(80+50)\div2=65\%$ （今回の集計の方法）となり、実際の割合の $(454.4+816.5)\div(568+1,633)=57.8\%$ と大幅に違う。これらのデータ結果で議論を進めることは不誠実であり、まじめに回答した者からしては頼りない数値となって議論する気も起らなかった。ズサンなアンケート集計で残念であった。次年度はIM単位で集計することとした。

主な回答で低レベルなものは・・・

- あなたは、ロータリアンの質は向上していると思いますか・・・・・・・・・・ 20%
- あなたは、クラブは現在活性化していると思いますか・・・・・・・・・・ 25～50%
- あなたは、魅力あるロータリアンと思いますか・・・・・・・・・・ 30%
- あなたは、地域社会はロータリーを認識していると思いますか・・・・・・ 20%
- あなたは、ロータリーは社会の流れに即応していると思いますか・・・・・・ 20%
- あなたは、最近「ときめき」ある奉仕をしましたか・・・・・・・・・・ 12～30%

2. 会員増強・拡大委員会

近年の会員数の推移（減少）を説明された。

会員数について過去10年間の我が国、2650地区の推移を表・グラフで示された。

日本のピークは1997年6月末131,731人でその後毎年2から3,000人程度減少し、2010年6月末では89,693人となっている。2650地区では2000年6月末6,185人から減少傾向は止まらず2010年6

月末 4,669 人になっている。減少傾向は日本、地区とも同じ傾向をたどっている。

2650地区のクラブと会員数

2650地区の2010年7月末の会員数は4,836人

(会員数)	(クラブ数)	割合	累積
10～19人	2クラブ	2.2%	2.2%
20～29人	21クラブ	21.9%	24.0%
30～39人	24クラブ	25.0%	49.0%
40～49人	22クラブ	23.0%	71.9%
50～59人	4クラブ	4.2%	76.0%
60～69人	11クラブ	11.5%	87.5%
70～99人	4クラブ	4.2%	91.7%
100人以上	8クラブ	8.3%	100%

2650地区では会員数40人以下のクラブは50%である。

女性会員の割合

女性会員の割合が最も多いのはカリブ海諸島の28%で最も低いのは日本の4%で、世界平均では15%である。

ここ十年の会員推移はいろいろな対策を各クラブともされてきたが減少を食い止めることができていない。ただ、会員数の減少割合が少ないクラブの対策は学ぶべきである。ただ秘策というものはないようです。

3. 広報・雑誌委員会

今まで3委員会は単独で委員会を開催されてきた。

◎ロータリー情報委員会

1. アンケート調査 ロータリーの現状と将来が見える
2. IM単位のクラブロータリー情報委員長会議
3. 新入会員セミナー
4. 理解推進月間（1月）に各クラブへの卓話

◎会員増強・拡大委員会

1. アンケート調査から次のような話し合いをしてきた。
 - ①ロータリーの現状
 - ②ロータリーの危機
 - ③退会理由とその背景
 - ④入会3年未満の退会者が多い
 - ⑤なぜ会員増強か？
 - ⑥会員資格者は？
 - ⑦女性会員のロータリーの入会促進

- ⑧ どうしたらよいか？ 等々
- 2. 地区会員増強セミナー会議
- 3. 増強月間（8月）に各クラブへの卓話
- 4. 地域別クラブ委員長会議

◎ 広報・雑誌委員会

ロータリー精神の広報・・・ロータリー活動の基盤

C L Pで広報が常任委員会となる

ロータリーの公式標語

- ① 超我の奉仕
- ② 最もよく奉仕する者、最も多く報いられる

ロータリー精神

ロータリーは基本的には一つの人生哲学である。それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は①の哲学であり、これは②の実践的な倫理原則に基づいている。

三委員会の最終目的は会員の増強および退会防止

具体的行動方針

I 長期計画の策定

II 奉仕活動をマスコミへ取材依頼する（R I 広報補助金を活用する）

III 地域社会において、ロータリーの存在価値を高める

奉仕活動は社会のニーズを満たす行為

24 R C 共同事業（2009年11月22日実施） 京都市内 R C

「割れ窓理論の実践」

IV ホームページの活用（三委員会共通）

V ロータリアン一人一人が広報マン

VI 地区大会への提案

社会のリーダーおよび将来のリーダーとなる人の参加

- 1) クラブ週報の充実・活用（対内的広報の重要なツール）
- 2) ロータリーの友の P R（ロータリー情報の宝庫）
- 3) 三委員会合同フォーラムの開催
各クラブで三委員会合同のフォーラムを企画・開催
- 4) 自分の企業・家庭への広報

ロータリアンの基盤は企業であり家庭であり、またロータリーの良き理解者である

5) ホームページ例会の提唱

自クラブ、他クラブ、ガバナー事務所のHPで情報の共有

6) 毎月 会員増強会議の開催

7) ロータリー情報マニュアル（改訂第3版）の活用

変化し続けるロータリー情報を学ぶことは、ロータリアンの責務です。

小冊子「ロータリークラブへお入りになりませんか？」の活用

世界は常に変化している

ロータリーは、この世界と共に

変化して成長していかねばならない

ロータリーの物語は

幾度も書きかえられねばならない

「ポールP. ハリス」